



令和5年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人 帝塚山学園

令和5年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和5年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長 塚本 真紀

令和5年度 学校評価

1. 総括

学 校 名	帝塚山幼稚園
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 (教育目標)	一人ひとりに寄り添い、豊かな感性と知性を育む教育を実践する。 “「一人ひとりの内面を育てること」を目標とし、自然とふれあいながら豊かな心を育み、好奇心、思考力、表現力の基礎を築く。”
前年度の成果と課題	[成果] 本園独自の四季の自然とのふれあいを主軸とした教育カリキュラムにより園児一人ひとりの個性を尊重し、豊かな感性と知性、自己肯定感を育む教育を実践した。 [課題] 園児の実態に即した教育の実践を図り、園児が主体的な遊びを通して心身の健やかな成長を遂げられるよう、教員の指導力向上に努める。また、各家庭とも連携し、園児一人ひとりに寄り添いながら個々の成長を見守る。

2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1. 建学の精神に基づく教育活動の共有化	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。（令和5年度カリキュラムの共有化）	A	A	① 年度初めの職員会議において「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を職員間で共有し、目標達成に向けて教員一人ひとりが研鑽しながら実践を積んだ。	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。
	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。（令和5年度カリキュラムの検証）	A		② 令和5年度教育カリキュラムに沿って、年間の指導計画を立て、園児の実態を踏まえながら日々の教育活動に柔軟に取り組んだ。	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。
2. 自然教育の実践と教育内容の質の向上	① 田植えから稲刈りまでの体験や夏の虫捕り、秋の木の实や落ち葉拾いなどの四季の楽しさを感じられる園外保育を通して、心を動かされるような直接体験を計画し、実施する。（園外保育を計画し、その様子を園便り クラス便り、てぶキッズ便りに掲載して保護者に開示）	A	A	① 田植えから稲刈りまでの体験や夏の虫捕り、秋の木の实や落ち葉拾いなどの四季の楽しさを園児が実感できる直接体験型の園外保育を多く実施し、自ら心を動かすことのできる心豊かな教育活動を実施した。好奇心、思考力などを培うための基礎作りに努めた。	① 園児が豊かな心を育むために四季折々の楽しさを感じられる直接体験型の園外保育を計画、実施し、園児にはその経験をもとに様々な表現活動を行うことで、心豊かな園生活を送らせる。
	② 自由遊びの時間に子どもが遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。（達成状況の報告）	A		② 子どもたちが自由な発想で遊びを創造し、主体的に遊べるように、職員間で、環境設定を工夫した。	② 自由遊びの時間に子どもが遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。
3. 道徳性の芽生えと人権教育	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの学びを保護者とも共有する。（令和5年度通園マニュアルの作成。異年齢活動の内容を園便り、クラス便りで保護者に開示）	A	A	① 年度初めに保護者に集団送迎時のマナーやルールを説明し、周知した。日々の園生活の中で自然な形で異年齢交流ができる機会を設け、他者を思いやる心を育むことにも繋げられた。	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの子どもの学びを保護者とも共有し、道徳性の芽生えを育む。
	② 年間の行事の中で、その子らしい姿を教師が大切に受けとめ、一人ひとりの個性を發揮できるようにする。また、保護者にその目的や成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。（クラス便り・園だより）	A		② 教員間で、年間行事のそれぞれの目的やねらいを明確にし、その行事までの過程を大切にす意義と行事を通しての心の成長について、保護者に伝えた。	② 年間の行事の中で、一人ひとりのその子らしい姿を教師が大切に受けとめ、個性を發揮できるようにする。また、保護者にその行事の目的や得られた成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。
	③ 近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た子どもの心の成長を保護者と共有する。（交流計画の立案。クラス便り・ホームページでの内容開示）	A		③ 初めて近隣の高齢者施設の方との交流会を実施し、園児に「心のバリアフリー」を学ばせる機会を持つことができた。またその成果を保護者とも共有した。	③ 継続的に近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た子どもの心の成長を保護者と共有する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
4. 「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園内教育連携の強化と共有化	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を計画し、実施する。(交流会の立案。クラス便り、園便り、ホームページでの内容開示)	A		① 帝塚山小学校1年生との交流会を計画し、実施した。また行事を通して実際の小学生の姿を見ることで憧れの気持ちを抱くことから「なりたい自分」を具体的に描ける機会を持つことができた。	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を検討し、計画、実施する。
	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業を計画し、実施する。(中学校・高校教員による体験型授業や交流機会の立案。クラス便り、園便り、ホームページでの内容開示)	A	A	② 帝塚山中学校・高等学校の吹奏楽部による学内での演奏会を有志の親子で鑑賞する機会を持ち、実際の中学、高校生の姿を間近に見られたことは園児、保護者双方にとって貴重な体験となった。帝塚山高等学校教員による親子サイエンス教室を実施したことも好評だった。	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業や学内で実施される行事等を体験できる機会を設定する。
	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。(年間15回以上の食育活動計画及び実施報告を文書で保護者に通知)	A		③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導の食育活動の年間計画を立て、計画通り実施した。食育を通して「生きる力」を育むというねらいを、保護者とも共有し、「食」に関する親子教室も実施した。	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べること」を通して「生きる力」を育むことを実践する。
	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り周知し、保護者に教員から「帝塚山教育」の良さを発信する。(クラス会資料(年間3回)、てづキッズ便りで学園内のトピックスを報告)	A		④ 帝塚山小学校の施設を利用する行事などを通して保護者に内部進学の推進を図り、進学率は昨年度より大幅増となった。帝塚山大学心理学部の協力を得て、「子育て支援講座」を2回実施し、保護者から好評だった。	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り共有し、教員から保護者に「帝塚山教育」の良さを発信する。
5. 国際理解教育の推進	① カリキュラム編成の土台として「英語の時間」の年間計画を立案し、実施する。(年間25回以上の「英語の時間」の授業計画と実施)	B		① 幼稚園独自の英語科カリキュラム編成のため、ネイティブスピーカーによる「英語の時間」の年間計画を立案し、計画通り実施した。「English Time」は実施しなかった。	① 小学校英語科に円滑な連携ができるよう「英語の時間」の内容を精査して、カリキュラムを立案し、実施する。
	② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるような、奈良の文化遺産に触れる園外保育を実施する。(園外保育の内容をクラス便り、園便りで保護者に開示)	A	B	② 年長組を対象に奈良の伝統工芸である赤膚焼の窯元での体験を実施した。また、年中組を対象に文化遺産に触れる園外保育を実施した。1月には、2歳児を含む全園児対象に奈良県天川村郷土芸能保存会 洞川民芸会の方による「獅子舞」を体験し、伝統文化に触れる機会を設けた。	② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるように、帝塚山大学客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に触れる園外保育を計画し、実施する。
6. 研究・研修を通じた教員の資質向上	① 令和5年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。(園外保育の内容をクラス便り、園便りで保護者に開示)	A	A	① 年間を通じて、外部講師による園内研究会を計画し、計画通り実施した。この研究会を通して本園独自の「自然教育」についてさらに研鑽を積んだ。	① 令和6年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。また、公開保育研究会を実施し、更なる教員の資質向上に努める。
	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。(各教員複数回の研修会参加と研修報告書の作成)	A		② 様々なテーマの外部研修会に、積極的に全教員が複数回参加した。	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。全教員延べ92回の研修に参加する。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
7. 学校評価の実質化	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。(ホームページでの自己評価結果の公表)	A	A	① 令和4年度の自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表した。	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。
	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。(学校関係者評価の公表)	A		② 学校関係者評価の内容を検討、準備し、令和4年度学校関係者評価を実施し、ホームページで公表した。	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。
8. 教員評価の実施推進	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。(教員自己評価結果及び個別面談)	A	A	① 教員に自己評価の実施に向けての趣旨説明を行い、年2回(前期・後期)の管理職による教員の個別面談と自己評価を実施した。	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。
9. 園児募集・広報活動の強化	① 教育連携課の客観的な見方や情報を入手し、効果的なPR活動を実施すると共に、個別見学などニーズに合わせた対応を行う。また、募集定員数についても検討する。(個別見学会の回数及び募集定員数の検証)	C		① 入園説明会、個別体験・見学会だけでなく随時、個別の園案内を実施し、更に帝塚山短期大学同窓会、中高同窓会を通して幼稚園・2歳児教育のPRの為に資料を配布した。志願者数は昨年度よりは増加したものの募集定員充足には至らなかった。今後も個別体験保育や園案内など有効な募集活動を検討、実施していくが、次年度以降の募集定員については現状を踏まえ、変更を検討した。	① 教育連携課の客観的な見方や情報を入手し、効果的なPR活動を実施すると共に、個別見学などニーズに合わせた対応を行う。また、帝塚山学園経営安定化計画(小幼編)に沿って、プロジェクトチームを編成し、広報強化することにより、募集定員の充足を目指す。保護者負担の軽減につながるよう、WEB出願システムを導入する。
	② ホームページで日々の園生活の様子を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させる。(ニュース&トピックスの毎日の更新及び帝塚山小学校広報部との情報共有)	A	C	② 幼稚園・2歳児教育共に園児の様子をアピールするため、幼稚園のホームページのニュース&トピックスを毎日更新した。また、帝塚山小学校と外部説明会に参加したほか、帝塚山小学校の募集関連行事で幼稚園のPRチラシを配布するなど連携して広報活動を実施した。	② ホームページで日々の園生活の様子や総合学園の強みを生かした教育活動を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させ、外部説明会にも積極的に参加する。法人企画課の協力を得て、より明確な募集活動を実施する。
	③ 各学校との連携活動とその教育的効果を理解してもらえよう、保護者にきめ細やかに伝える。(活動内容や成果を園だより、てづキッズ便り、クラス便り、クラス会資料で保護者に通知)	A		③ 園行事に帝塚山大学教育学部の学生が参加することによって、学びの場を提供すると共に園行事のスムーズな運営につながることを園便りなどを通して保護者に伝えた。また、食物栄養学科との食育活動(親子教室を含む)、心理学部とのキンダーカウンセリング事業など学園前キャンパス内での教育連携を積極的に行った。	③ 各学校との連携活動とその教育的効果を理解してもらえよう、保護者にきめ細やかに伝える。
10. 安全管理の強化と徹底	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に計画、実施し、園児の防災意識を高める。(令和5年度学校安全計画(幼稚園) 防災訓練計画と実施確認書)	A	A	① 令和5年度学校安全計画(幼稚園)を策定し、園児の防災意識を高めるために避難訓練の年間計画を立て、実施した。	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に(毎月1回)計画、実施し、園児の防災意識を高める。

評価項目	具体的目標・方策及び評価指標※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
10. 安全管理の強化と徹底	② 危機管理マニュアルを点検、作成し、教職員間で内容を周知する。幼稚園バス園児置き去り防止を徹底する。(危機管理マニュアルの点検及び幼稚園バス置き去り防止システムの搭載と点検)	A	A	② 危機管理マニュアルの内容の点検、見直しをした。スクールバス安全運行マニュアルを見直し、園児置き去り防止策としてバス内にシステムを搭載すると同時に、園児にも指導を行った。	② 危機管理マニュアルを点検し、教職員間で内容を共有する。スクールバス安全運行マニュアルを点検し、スクールバス園児置き去り防止対策を徹底する。
11. 保健管理の徹底	① 新型コロナウイルスをはじめとする感染症の拡大防止対策継続を徹底する。(令和5年度新型コロナウイルス感染拡大防止の取り決めについて保護者に通知)	A	A	① 学校保健計画(幼稚園)を策定した。年度初めには新型コロナウイルス感染症に対する取り組みを緩和すること、但し、今後も継続できる対策については引き続き実施することを保護者に周知した。また、季節性インフルエンザについても適宜養護教諭より感染予防策について保健だよりを通して保護者に発信した。	① 地域の保健・医療機関との連携も図りながら学校保健計画に従った保健管理を行う。
	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。(保健指導計画を立案し、クラス便り、園便りで保健指導内容を開示)	A		② 保健指導計画を立案し、養護教諭を中心に計画通り園児に年6回の保健指導を徹底した。	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。
12. 子育て支援事業の充実	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための保育計画を立案、実施する。(令和5年度2歳児教育カリキュラム)	A		① 2歳児教育の年間カリキュラムを作成し、園児の実態に即して柔軟な活動を実施した。	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための保育計画を立案、実施する。
	② 帝塚山大学心理学部の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。(年間10回のカンファレンス実施記録・個別相談の実施)	A	A	② 帝塚山大学心理学部・大学院心理科学研究科とキンダーカウンセラー事業に取り組み、園児や保護者のカウンセリングを実施し、カンファレンスで教員とも情報共有した。また、心理学部生、大学院生の実習受け入れにも協力し、相互の学びに繋がる事業を展開した。	② 帝塚山大学心理学部の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。また適正なクラス運営に繋がれるようにする。
	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。(通常保育時間後及び長期休業中の25日以上預かり保育の実施及び記録)	A		③ 保護者のニーズにあわせて長期休業中の預かり保育を年間25日以上実施し、安心して預けられる環境を提供できるように帝塚山大学教育学部学生ボランティアの協力も得ながら取り組んだ。	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。課外活動について外部業者委託など新たに検討する。
13. 経営安定化策の強化	① 継続的な節約(事務費を中心に)に努める。(物件費の前年度からの減少)	A	A	① 年度初めに、幼稚園の教職員全員が継続的な節約(事務費等を中心に)に努めることを確認し、実行した。	① 費用対効果を考慮し、継続的な節約(事務費を中心に)に努める。また、スクールバスのコスト抑制を検討する。
	② 適切な人員配置をしたうえで調整を図る。(教員配置数の点検)	A		② 適切な人員配置を心掛けることを管理職を中心に確認した。	② 総園児数からのクラス編成数に応じた、適切な人事制度や人員配置について段階的に移行することを検討する。

3. 学校関係者評価

(学校関係者評価実施日：令和6年4月19日)

学校関係者評価委員会委員：育友会会長、副会長、帝塚山大学教育学部教授、帝塚山小学校校長)

意見	改善方策
<p>① 今年度の重点目標に一人ひとりの内面を育てる、豊かな心、好奇心、表現力の基礎を築く(=生きる力の基礎を築く)を挙げているが、概ねコロナ禍が明けた昨年度は実践できており、また、それに対する十分な評価を上げていると思う。園便り等で園児の活動でどういう成果があったかを保護者にアピールし、きちんと目に見える形・聞こえる形にしている良かった。また、自然との触れ合いを大切にする保育は子ども自らが好奇心を持って臨め、自主的な学習意欲や学習習慣の基礎となっていくから是非、続けて大事にして欲しい。</p>	<p>① 令和5年度の保護者アンケートで高評価を得た。それは概ねコロナ禍が明けて、様々な行事が実施でき、園児の様子を実際に参観等で見てもらったり、園便り・てづきッズ便り・クラス便り・ホームページ等で保護者に何が育ったのかをその都度、伝えられたりしたことも大きな要因だったと思う。引き続き、当園の掲げる自然保育を実践する中で、触ったり、感じたり、生の体験を通して、好奇心を育て、感じる心、考える力、友達同士の中で自ら学ぶ力を身につけていく取り組みをしていく。</p>
<p>② 園児募集において効果的な広報活動の点でC評価を挙げている。「幼稚園らしさを出す」、「発信の強化」という面で更なる工夫は必要だとは感じるが、乳児を持つ保護者がホームページまでたどり着きにくいことも多いと思われるのでInstagramでの投稿を提案する。発信側の準備と工夫が必要であるが、幼稚園側からの視点ばかり発信するのは独りよがりになり、「自分らしさ」にこだわりすぎると逆に敬遠される懸念もあるので、受け取る側の保護者に寄り添うことが大切である。引き続き保護者へのアンケートを実施し、帝塚山幼稚園の良さと足りない部分を汲み上げ、それらに基づいて改革を考えたり、卒園児のその後がどうなっているかを追跡して活躍ぶりを表に出していく等の工夫してみるはどうかと思う。説明会で卒業生や保護者のリアルな声を聞ける場を作ることも園の魅力を伝えるには効果的で良いと思う。</p>	<p>② 子どもの数が減少し、募集定員を充足させるのは厳しい状況であるが、在園している保護者の満足度を上げることを目標に今後も努力していく。在園している保護者に園の教育への理解を深めてもらい、口コミで園の魅力を広げていくことにも注力し、説明会等で卒業生や保護者の生の声でアピールする場を作ることも検討する。また、ホームページだけでなくInstagram等のSNSを活用し、幼稚園の教育を理解し認知してもらうために受け取る側の保護者のことも考えて発信していく。</p>
<p>③ 学内教育連携の強化と共有化については、小学校、中学校・高等学校、大学との教育連携事業など、帝塚山学園の幼稚園だからこそ出来る種々の活動を実施している。今後さらに充実させていくことで園児募集にも繋がると思われる。また、総合学園であることの魅力を生かすことで、在園している保護者が帝塚山幼稚園に通わせて良かった実感を持つことにもなっている。</p>	<p>③ 同じ敷地内に幼稚園から大学までである総合学園としての良さを大きなメリットとしてアピールして、学内教育連携を活発に進めていく。また、幼稚園側からも保護者の声を聞いて、「子どもがまんなか」であるように今後も取り組んでいく。子育て支援講座やキンダーカウンセリング事業においても、今後も子育ての悩みを幼稚園と家庭とで共有しながらより良い教育支援になるようにしていく。</p>